

あすびと福島コミュニティによる 社会的事業の立上げと人材の成長



ともに、築く。ともに、育つ。

あすびと福島
コミュニティ

主催：あすびと福島コミュニティ実行委員会
実行委員長：(社)あすびと福島 代表理事 半谷栄寿
副委員長：(株)小高ワークスベース 代表取締役 和田智行

後援：福島県
支援：経産省「被災12市町村つながり補助金」

< 目的 >

「あすびと福島コミュニティ」は、福島に新しい価値を創造しようとする福島の高校生と大学生が福島に向きあう社会人とともに社会的事業を立ち上げる「福島のための世代をつなぐコミュニティ」です。

こうして立ち上げる社会的事業の運営経験を通して、
学生は自分自身を成長させ、その中から
福島の復興と創生に挑戦する人材が生まれることが期待されます。

< 日時・場所・宿泊 >

2017年8月5日(土)・6日(日)
南相馬ソーラー・アグリパーク
センターハウス

< 参加申し込み先 >

(社) あすびと福島 TEL:03-3456-0407 MAIL:shiine@asubito.or.jp

＜参加メンバー…50名＞

- 高校生と大学生は、高校生あすびと塾と大学生あすびと塾の中で行動しているメンバーが中心となって、同じ年代の参加者を募ります。
- 社会人は、南相馬でのフィールドワークに参加した企業社員・国家公務員が中心になって、福島に向き合い続けたいという志を持つメンバーを募ります。
課題先進地域・福島を課題解決先進地域とすることを通して、2枚目の名刺でも自己実現しようとする社会人が集います。
- 参加費：22歳まで無料、23歳以上1万円

高校生

原町高校、ふたば未来学園、福島高校

大学生

福島大学、慶応大学、東京都市大学、
東洋大学、明治大学、宮崎大学、
武蔵野美術大学、早稲田大学



50名の
世代を超えた
縦断チーム

ファシリテート



半谷栄寿
(あすびと福島)

コメンテート



開沼博
(立命館大学)



枝廣淳子
(東京都市大学)



和田智行
(小高ワークスベース)



但野謙介
(Huber)

社会人

企業人

凸版印刷、富士通、三菱商事、
中外臨床研究センター、
中小企業診断士、ソフトバンク、
ジョンソン&ジョンソン

公務員

福島県、福島大学、県立高校、
経産省、財務省、農水省

< プログラムの概要 >

DAY **1**
8月5日(土)

- 被災地 浪江町・南相馬市小高区を体感
- 被災地の方々から現状と課題を共有
- 課題を解決するアイデアを発想



DAY **2**
8月6日(日)

- アイデアをビジネスモデルに具体化
- コミュニティとして実現に向かうビジネスモデルを選定
- 実現メンバーの選定



半年程度をかけて事業化を実現

- 8:00 東京方面の参加者は貸切バスで東京駅から出発（常磐高速道）
- 11:30 富岡町で、東京方面からの参加者と福島からの参加者が合流。国道6号線を北上して大熊町・福島第一原子力・双葉町を経て、浪江町と南相馬市小高区ではバスから降りて現状を体感。浪江町出身の東洋大学学生・山本と、小高区・和田が案内。（昼食は車中）
- 14:30 南相馬ソーラー・アグリパーク到着
- 社会課題を深堀するワークショップ（高校生,大学生,社会人の混合6名×8グループ）
- ①浪江町/山本、川村(花卉栽培)、小高区/和田、小林（双葉屋旅館女将）から、普段の生活に根差した地域の困りごとや課題を聞き、自分事化。
（8Gを4Gにし、4名と30分ずつ会話）
- 16:30 ②感じ取った課題の中から取り組む課題を絞りこむ。
- ③課題への解決策として社会的事業のアイデア出し。
- 18:00 8Gから学生が代表して、課題の設定と社会的事業のアイデアを発表。
- 19:00 BBQパーティー

7:00 朝食

8:00 アイディアをビジネスの仕組みにするワークショップ

学生が自分でやりたいと思う志とビジネスモデルを追求し、社会人がサポート。

11:30 昼食

12:30 ピッチ

各グループ代表の学生が発表。全員で投票し、あすびと福島コミュニティと

して実現に向かう社会的事業を複数選定。学生をサポートする社会人の自薦他薦。

15:00 次につなぐ交流

16:00 南相馬ソーラー・アグリパーク出発

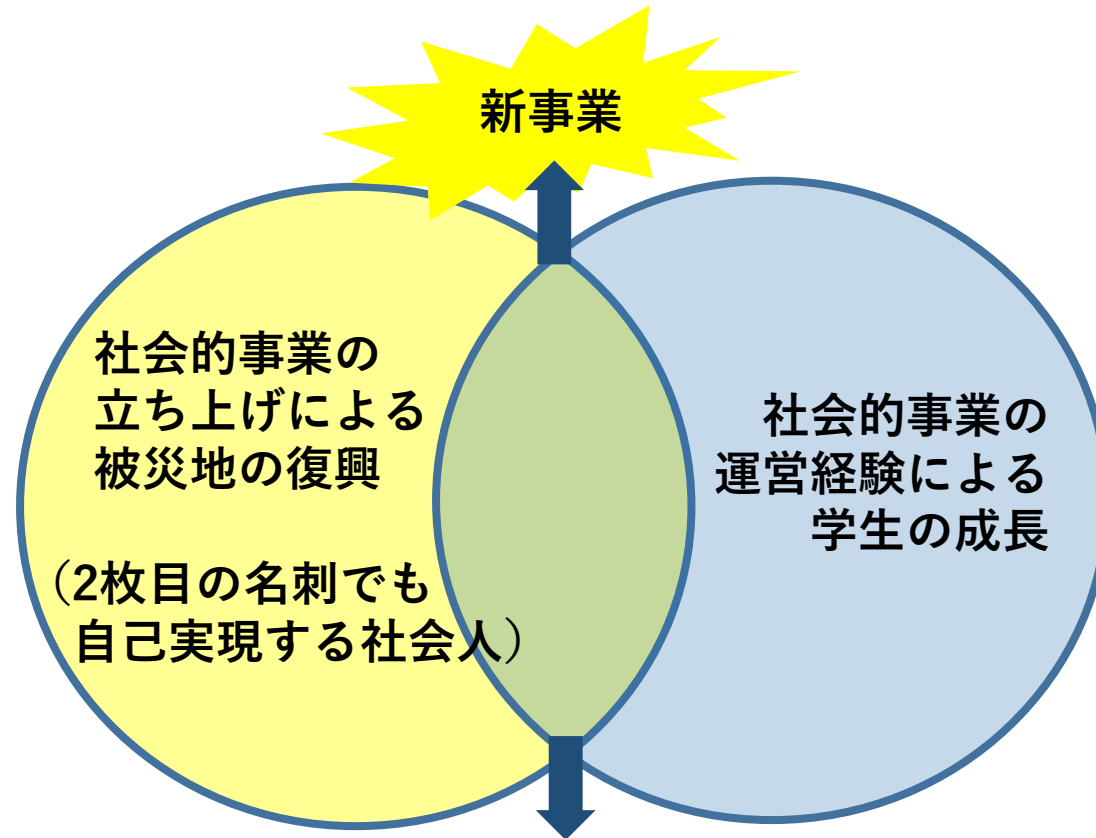


＜新事業の立ち上げ経験を通して学生が成長＞

DAY 1・DAY 2 終了後も、主体となる学生を社会人がサポートし、半年後を目標にビジネスモデルを具体化して、新事業を立ち上げ、学生が成長する場とします。

○ あすびと福島は、スタッフが伴走するとともに、事業化検討資金として50万円を支援します。

○ 社会人も、2枚目の名刺として少額出資を行ったり、事業運営の一翼を担います。



「高校生が伝えるふくしま食べる通信」事業

【編集部：4学年で14名、読者：全国に750名、購読料：2500円（季刊）】